

第 39 回 熊本の消費予報調査(2018 年 5 月調査)

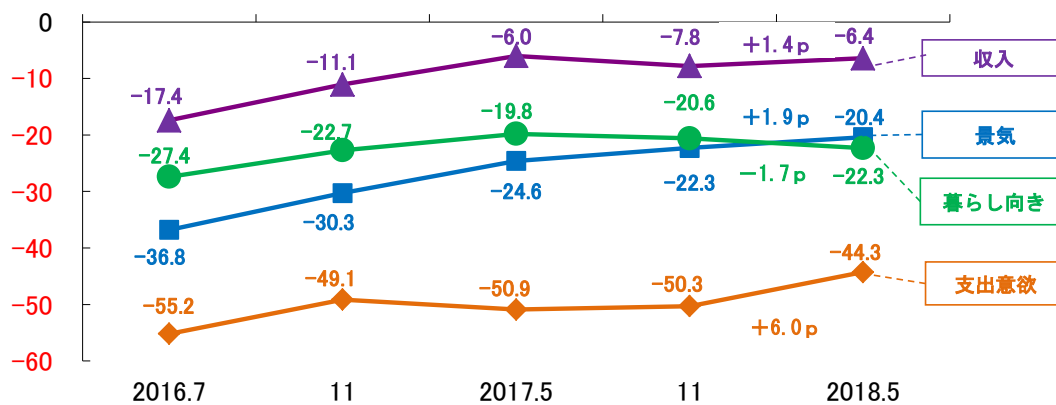
将来不安やガソリン価格の上昇などが消費マインド改善の足かせに
はじめに

当研究所では、毎年5月と11月に熊本県在住の女性を対象として、「景気」、「収入」、「支出意欲」、「暮らし向き」及び、「日常的な支出」、「非日常的な支出」について今後半年の見通しを尋ねている。これらの調査結果の分析を通じて、熊本県の女性の消費マインドの今後の見通しなどを探りたい。

【調査結果の概要】

- 「支出意欲」の見通しについては、リーマンショック前からの長期推移をみると依然として低い水準にとどまっている。
- 「暮らし向き」の見通しは悪化。収入が伸び悩む中で、生鮮食料品やガソリン価格が上昇していることや、社会保険料の負担が増加していることなどが要因とみられる。
- 「20代」や「30代」では、自由回答で「将来が不安なので貯蓄したい」や「子どものために貯蓄したい」などの回答が目立ち、生活防衛意識の強さが消費を抑制していることがうかがえる。
- 来年の消費税増税に関する自由回答も多くみられた。「増税後は景気が悪化する」、「増税されるので買い控える」などのコメントが見られ、消費マインドに影響を与えていることがうかがえた。
- 熊本地震前と比較した現在の生活環境については、生活環境が元に戻っていないという回答は僅かに減少傾向にあるものの、1割程度の水準で固定化しつつある。

【今後の見通しDIの推移（直近5期）】



【調査概要】

1. 調査対象：熊本県在住の20歳以上の女性
2. 調査期間：2018年5月11日～14日
3. 調査方法：調査会社登録モニターへのネット調査（調査会社：(株)マクロミル）
4. 有効回答：515人

【回答者の属性】

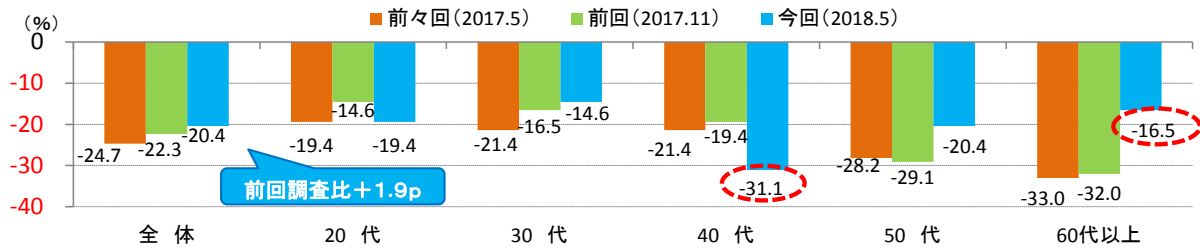
年代	実数(人)	構成比(%)
20代	103	20.0
30代	103	20.0
40代	103	20.0
50代	103	20.0
60代以上	103	20.0
合計	515	100.0

1. 今後半年間の見通し DI

(1) 景気の見通し

➢景気の見通しDIは▲20.4。年代別では、「40代」が▲31.1で最も低い水準となっている。「ガソリン価格の上昇」や「消費税増税」などを要因にあげる意見がみられた(図表1)。
 ➢「60代以上」はDIが大きく改善したが、「復興需要」や「東京五輪開催」等を要因にあげている。

図表1 景気の見通しDI ((「良くなる」+「やや良くなる」)-(「悪くなる」+「やや悪くなる」))

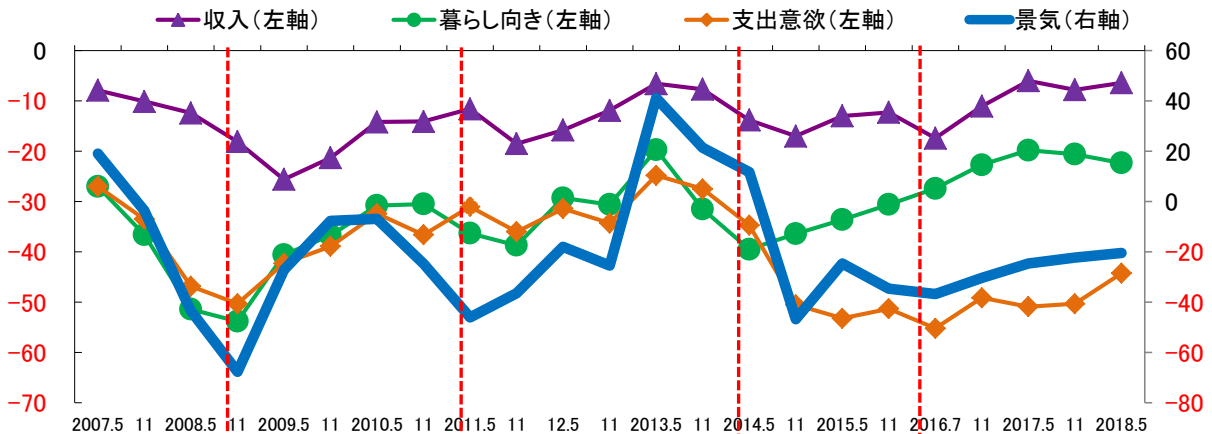


【景気の見通しに関する主な自由回答】

年代	コメント	景気	収入	支出	暮らし向き
20代	消費税10%になったら悪くなりそう	△	—	△	—
20代	世界選手権やオリンピックが開催されるため	○	△	—	○
30代	東京オリンピックでの需要の増加、熊本地震の復興特需	◎	◎	▲	—
30代	建設業で働いているが、震災関連以外の入札がない	▲	—	—	—
40代	ガソリンが高いので	△	—	—	△
40代	消費税が高くなるので買い控えると思う	△	—	—	—
50代	東京オリンピックまでは景気は良くなりそう	○	—	△	—
50代	日々の生活の中で、行った事のあるお店の閉店が多くなった気がする。	△	—	—	—
60代以上	熊本は建築の需要が進んで景気は良くなると思う	○	▲	△	—
60代以上	オリンピックまでは、建築業、観光業などが良いと思うから	○	—	—	—

	◎	○	—	△	▲
景気の見通し	良くなる	やや良くなる	変わらない	やや悪くなる	悪くなる
収入の見通し	増えそう	—	変わらない	—	減りそう
支出の見通し	緩める	少し緩める	変わらない	少し引き締める	引き締める
暮らし向きの見通し	良くなる	やや良くなる	変わらない	やや悪くなる	悪くなる

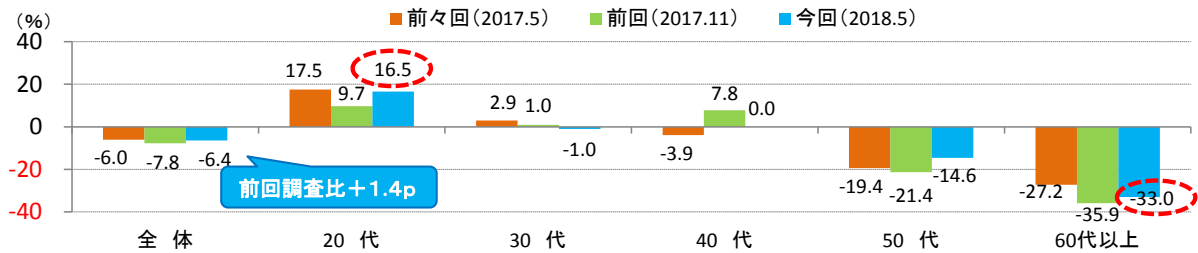
【参考】今後の見通しDIの長期推移 (2007年5月調査~2018年5月調査)



(2) 収入の見通し

➤収入の見通しDIは▲6.4。年代別では、「20代」の+16.5が最も高く、「60代以上」が▲33.0で最も低くなるなど、年代が高くなるほどDIが悪化する傾向がみられた(図表2)。
 ➤「20代」では、「転職」等に伴う収入増加、「時給アップ」や「新規就業」などの要因、「60代以上」では「定年」に伴う減収や「年金のみで収入が増えない」ことを要因にあげる意見などがみられた。

図表2 収入の見通しDI (「増えそう」-「減りそう」)



【収入の見通しに関する主な自由回答】

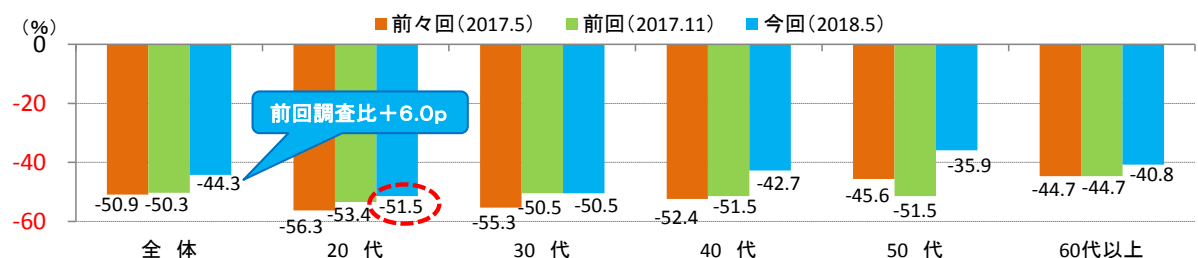
年代	コメント	景気	収入	支出	暮らし向き
20代	転職するため	—	◎	△	◎
20代	時給があがった	△	◎	△	△
20代	専業主婦だった私が近いうちに働きに出るから	—	◎	○	○
30代	ダブルワーク(副業)を始めたので	—	◎	△	—
30代	残業がなくなったので	△	▲	—	△
40代	転職して待遇が良くなったため	△	◎	○	—
40代	働き方改革で残業が出来なくなっているから	△	▲	▲	△
50代	会社の残業規制がされているため	○	▲	△	△
60代以上	第2の職場もリタイアしたので、後は年金だけの収入	—	▲	—	—
60代以上	年金暮らしなので少しずつ下がっている。	△	▲	△	△

※表中の符号(景気・収入・支出・暮らし向きの見通し判断)については○ページ下部を参照

(3) 支出意欲の見通し

➤支出意欲の見通しDIは▲44.3。リーマンショック前からの長期推移(2ページのグラフ参照)をみると依然として低い水準にとどまっている。
 ➤年代別では、「20代」の▲51.5が最も低い。年代が若くなるほど悪化する傾向がみられた(図表3)。
 ➤「20代」では、「将来が不安なので貯蓄したい」や「子どものために貯蓄したい」などの意見が多くみられ、将来に備えて支出を絞り込みたいという意識が強いことがうかがえた。

図表3 支出意欲の見通しDI ((「緩める」+「少し緩める」)-(「引き締める」+「少し引き締める」))



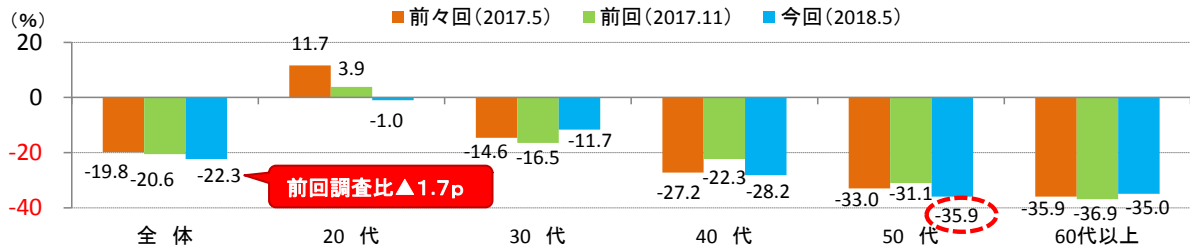
【支出意欲の見通しに関する主な自由回答】

年代	コメント	景気	収入	支出	暮らし向き
20代	将来が不安なので支出を控えめにして貯蓄に回したいから	▲	◎	△	△
20代	子供の将来のため貯蓄	▲	◎	△	△
20代	住宅ローンが始まり、子供の習い事しようと思っているので	△	◎	△	△
30代	今後子供にお金がかかるので貯めたい	—	◎	▲	◎
30代	老後への貯蓄にまわす	—	—	△	—
40代	スキルアップのために支出が増える	△	◎	○	—
40代	日本は災害なども多いし、いつ何があるかわからないので	—	—	△	—
50代	住宅ローンが終わる予定だから	○	—	○	○
50代	数年後定年退職なので、今のうちに貯金をする	—	—	△	△
60代以上	年金暮らしにそなえて引き締めたい	△	—	△	▲

(4) 暮らし向きの見通し

- 暮らし向きの見通しDIは▲22.3。年代別では、「50代」の▲35.9が最も低くなっており、年代が高くなるほどDIが悪化する傾向がみられている(図表4)。
- 「50代」では、「収入が伸び悩む中で、消費税や社会保険料等の負担が増加する」という意見のほか、「物価の上昇」や「親の介護費用の負担増加」などをあげる意見もみられた。

図表4 暮らし向きの見通しDI ((「良くなる」+「やや良くなる」)-(「悪くなる」+「やや悪くなる」))



【暮らし向きの見通しに関する主な自由回答】

年代	コメント	景気	収入	支出	暮らし向き
20代	私が仕事を始めることで、収入が増えるから	—	◎	○	○
20代	収入は増えないが、物価はどんどん上がるから	—	—	△	△
30代	生活費の見直しでムダを無くしていくから	—	—	△	○
30代	教育費などにかかるお金が増えるから	—	—	△	△
40代	子供の学費がかかるから	—	—	△	△
40代	商品が値上がりするので買えなくなる	△	—	△	△
50代	物価も上がり消費税も上がるのに給料は上がらない	△	—	○	△
50代	収入は増えないのに、支出(税金、保険料等)が増える	▲	—	△	△
50代	母親の介護費用が増える	▲	—	—	△
60代以上	年金収入はかわらないのに支出が増えた	▲	▲	▲	▲

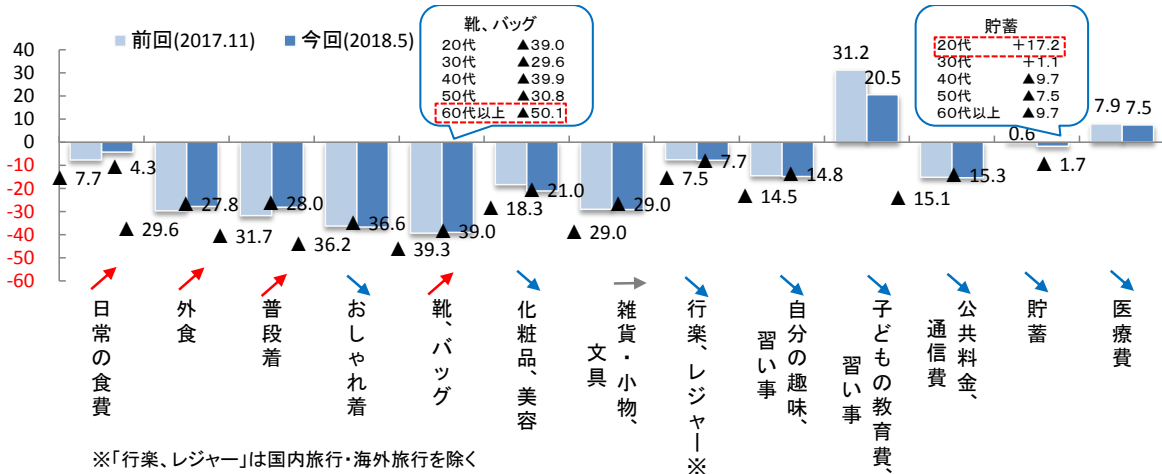
※表中の符号について	◎	○	—	△	▲
景気の見通し	良くなる	やや良くなる	変わらない	やや悪くなる	悪くなる
収入の見通し	増えそう	—	変わらない	—	減りそう
支出の見通し	緩める	少し緩める	変わらない	少し引き締める	引き締める
暮らし向きの見通し	良くなる	やや良くなる	変わらない	やや悪くなる	悪くなる

2. 日常・非日常の支出の状況

(1) 日常的な支出の見通し

- 「子どもの教育費、習い事」は前回調査比で 10.7 ポイント低下したが依然として高い水準(図表 5)。
- 最も水準が低かったのは「靴、バッグ」の▲39.0 で、年代別では「60代以上」の▲50.1 が最低。
- 生活防衛意識の強さなどから、「貯蓄」は「20代」で+17.2 と高水準を維持。

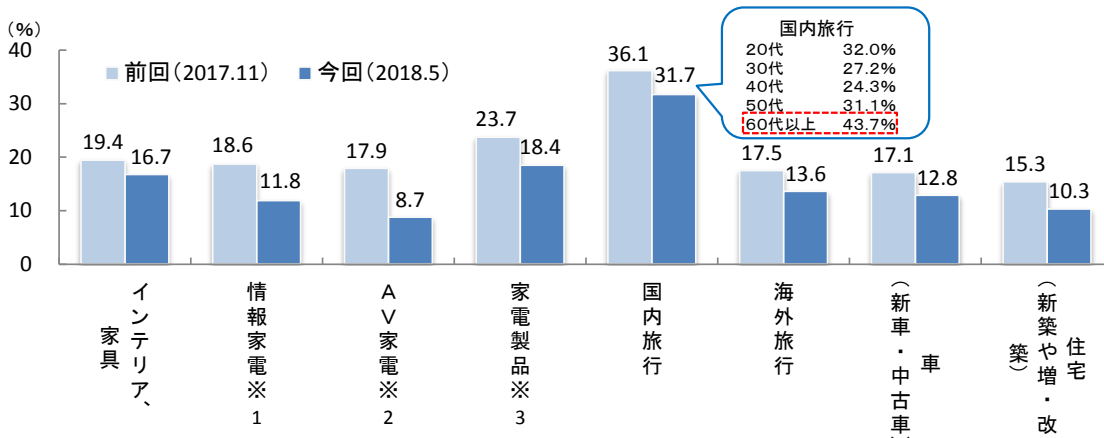
図表5 日常的な支出の今後の見通しDI(「増やす・増えそう」-「減らす・減りそう」)



(2) 非日常的な支出の見通し

- 今回調査では、全 8 項目のすべてが悪化している(図表 5)。
- 最も支出見通しが高かったのは「国内旅行」の 31.7%であった。年代別では「60代以上」の 43.7%が最も高くなっている。

図表6 非日常的な支出品目の今後半年間の支出見通し

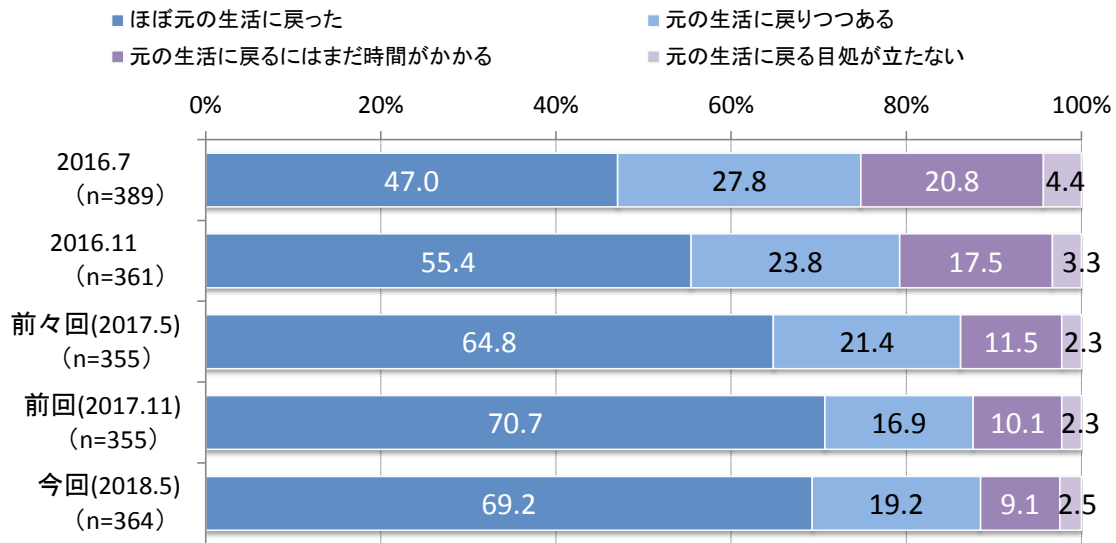


※1 情報家電とは、パソコン、パソコン関連機器、携帯電話(スマートフォン)など。
 ※2 AV家電とは、テレビ、ブルーレイレコーダー、デジタルカメラ、ビデオカメラなど。
 ※3 家電製品とは、冷蔵庫、洗濯機、食洗機、エアコンなど、情報家電とAV家電以外の電気製品。

3. 熊本地震前と比較した現在の生活環境

- 今回調査では、「ほぼ元の生活に戻った」という回答が 69.2%で、熊本地震が発生した 3 か月後に実施した 2 年前の調査と比べると 22.2p増加している。
- 一方、「元の生活に戻るにはまだ時間がかかる」という回答は 9.1%、「元の生活に戻る目途が立たない」という回答が 2.5%で、合計 1 割は生活環境が元に戻っていない状況にある。数値は僅かに減少傾向にあるものの、前々回調査から 1 割程度の水準で固定化しつつある(図表 7)。
- 自由回答をみると、住居等の復旧が進んでいないことを要因にあげる意見が多く見られた。

図表7 熊本地震前と比較した現在の生活環境



【熊本地震前と比較した現在の生活環境に関する主な自由回答】

	年代	居住地	コメント
元 の 生 活 に 戻 り つ つ あ る	20代	熊本市	生活は問題ないが、まだ家の修理が出来ていない
	50代	熊本市	まだ仮設に住んでいる友人がいるし、街並みに空き地が多い
	50代	益城町	生活環境は元に戻ったが、復旧できていない道路、公共施設、家屋がまだたくさんある
	50代	合志市	被害が少ない地域だった事もあるが、後は家の修繕の順番待ち。ただ、いつまでかかるのかはまだ未定
	60代以上	阿蘇市	インフラの整備が進んできた
元 の 生 活 に 戻 る に は ま だ 時 間 が か か る	20代	熊本市	地震からの立て直して貯蓄が無くなり、借金が増えた
	30代	熊本市	実家が半壊、工事もまだのため
	40代	熊本市	家が傷んだままだから
	40代	熊本市	自分は地震前と変わらない水準まで来てますが、住んでいる街は解体される家や店が相次ぎ、更地が目立ち元に戻るにはかなり時間がかかりそう。人の流れも変わり全体的に活気が減りました
	50代	熊本市	みなし住宅で生活している家族が離れて暮らしていて、まだ、先の見通しがついていない
	50代	熊本市	家は修理をしないまま。壊れてなくなったものを買うゆとりがない
	50代	菊陽町	家の破損はまだ修繕出来てない
元 の 生 活 に 戻 る 目 途 が 立 た な い	40代	熊本市	家が建てられない
	60代以上	熊本市	家の修理費用がかかる
	40代	御船町	家は一部損壊で修理費の目処が全くたたない